
思春期男子の妄想

あげぱん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思春期男子の妄想

【Nコード】

N8701I

【作者名】

あげぱん

【あらすじ】

彼女欲しい！

思春期男子

倉科カオルが送る日々

チラリズム（前書き）

この作品には

エロが含まれています

エロが苦手な方は

ご遠慮ください

チラリズム

最近、俺が思っていることを話そう

その前に

自己紹介しておくか

俺は倉科カオル

公立高校に通う高校2年生

歳は17歳〓彼女いない歴

〓童貞

悲しくなってくるから

自己紹介はこのへんでやめようぜ

話を戻すが

最近、俺が思っているのは女子のスカートからみえる太ももだ

おいっ！

今、変態っていったやつ

こっち来い！

してやる

話を戻すか

あの階段が上がっているときにみえる太ももが

俺を誘ってるのか

って思ってしまうぜ！

いつもこんなこと

考えてるから
モテないんだな…

俺の春は
いつ来るんだ？

一生来ないのか……

最終、風 に行くしかないな

ああゝ

彼女ほしい！

春よ、来い

おはよう

猛烈に彼女がほしい

カオルです

この前はいきなり

エロい話をしてしまった

すまない

鼻血をだしたやついたら

お前は童貞だ

と

こんな余談をしてる場合じゃなかった

学校に遅れてしまう

じゃあ

行ってくるぜ

学校編スタート

さて

学校までの道のりで

俺の高校について

俺の学校でのポジション

クラスメート

友達

とかの話をしよう

まず

俺の高校だが

普通の公立高校だ。

ちなみに俺は文系クラス

数学が苦手だからか

だって？

たしかに数学は苦手だが

文系を選んだのには

もっと違う理由がある

それは……

女子が多いからだ

理系は女子が少ない

そんなスクールライフ、俺は堪えられない

だから、文系にしたんだ。動機が不純だって？

全国の93%の文系男子高校生はこの理由で文系を選んでいるんだぜ！

ん？そんなデータないって？

うん、今、俺が考えたからな笑

次に

俺の学校でのポジションだが、微妙だ……

顔、性格は並……だと思ってる

問題は何故、彼女がてきないのかだ

それを考え出したら

きりがないから

今はスルーで

おっと

ゆっくり歩きすぎた

間に合わねえから

友達のこととかは

おいおい説明するから

じゃあな

俺が教室の扉の前に

たどり着いたのは

1限が始まって15分と34秒

過ぎた頃だった

授業は数学

扉から中を覗くと

俺の嫌いな本田が

黒板にわけのわからない

ものをかいている

あれは楔形文字ですか？

俺には理解できません

ここで本田について説明しておこう

本田は今年47歳の数学教師で超ロリコンだ

小学生をナンパして

謹慎になったくらいだ

今は高校生を狙ってやがるお前に俺の女子は渡さない
って

お前の女になったつもりはない？

はい、すみません

俺はゆっくりと扉を開け

ほふく前進で自分の席まで移動することにした

もちろん入るのは

後ろの扉からだ

前から

入るなんて自殺行為だからな

よし

本田が楔形文字を書きだした
作戦実行！

予定通り

教室に潜入しほふく前進で進む俺、
席に行く途中、女子のパツを見ようとトライしたが失敗した

そろそろ席に向かうか
ん？

そつえば俺の席

真ん中の一番前だった…

駄目じゃん

いや、やつが

楔形文字を書き終えるまでにたどり着けば大丈夫だ

いざ、前進……………

「何やってる倉科」

はい、ばれましたー

あのあと

休み時間いっぱいまで

ありがたい説教を

いただきました…

教室にもどると

俺の親友？ 友沢が話しかけてきた

「災難だったな。てか、なんで遅れたんだよ。

まさか、ラ ホで朝を迎えて準備に手間取ったとかか？ お前、一

緒に魔法使いになろうって約束したじゃねえか。忘れたのか？あの
熱い約束を」

「いや、やってねーし

まだ童貞だし……

てか、いつそんな約束したんだよ」

今の会話からわかるようにこの友沢も俺と同じ童貞だ

ここで友沢について

簡単に紹介しよう

友沢は両親が外国にいつているので姉と二人で暮らしている

この姉がめっちゃ美人の女子大生なんだぜ

ちなみに友沢は
姉のパツで抜いてます…

「そうだったっけ？」

まあ、いいや。それより

きいたか？今日、身体測定があるらしいぜ」

「それがどうした？」

「お前、身体測定といたら俺達男子にとって
女子の下着姿をみるチャンスじゃねえか」

「そんなことが」

「そんなことって何だよ

やっぱりお前、卒業したのか…」

「してねーっていつてるだろ。それに俺はそういつ
こそこそしたことはやめたんだよ。同意の上でみることにしたんだ」
つい数十分前 のぞき見しようとしてた…

「なんだよ。ノリ悪いな

わかったよ。俺もやめるよこれからはお前みたいに
同意の上でみれる男を目指すぜ」

「そうしろ。って授業、始まる。この話はここまでな」

授業が

終わったあと

友沢はさっき宣言したことを忘れたのか

身体測定を覗きにきました

その直後

俺は保健の石本先生に
呼び出された

俺の得た情報では
石本先生は童貞の生徒を
食っているらしい

ついに

俺も卒業のときが
きたか

ちなみに

石本先生はめっちゃ美人でEカップの巨乳だ

初工 チで

初パ リですか！

いや

想像しただけで
臨戦態勢に……………

次回

保健室編をお楽しみに…

まだ学校編

終わってねえ……………

枯れたプロテイン

みんな待ち遠しかった
保健室編の始まり〜

石本先生に呼び出された
俺は淡い期待をしながら
保健室に向かった

途中、
財布の中のコームを
確認し
準備は完璧だった
ここまでは…

保健室についた
俺は
ノックして中に入った

石本先生は
俺が入るや否や
鍵を閉めた

待つてました
この展開！
17年間ありがとう
さよなら、童貞

「倉科くん、きてえ」

「はい！」

ん？

なんで俺、縛られてる

「先生、どういことですか？」

「どういことって、決まってるでしょう。今からあなたのお二
一を観察するのよ」

!!!!

なんですと！

予期せぬ展開…

まさか、石本先生の

あの噂は童貞を食べるんじゃないやなくて
いたぶるといことか……

「早くコキなさいよ。」

そのために右手だけ自由にしてあるんだから。それとも倉科くんは
左利きかしら？」

「右利きです。」

先生、お願いします

やらせてください。」

「ダメ。私が童貞食いつて聞いてたかもしれないけど大事なことが
抜けてるわよ」

「なんですか？」

「ただし、イケメンに限る」

……………合掌

それから

俺は6限目終了まで

保健室に監禁され

計8発うった

その様子は

ビデオに撮られていた……

最後に先生は

「倉科くん、知ってた？」

長い間、射精しないと

精力が弱まってアレがミニマムサイズになるんですって。よかった

わね。先生のおかげで

当分その心配はいらないわね。 というより

童貞だから毎日

抜いてるし最初から

その心配は

なかったかしら。

また見せてね

見せてくれないとビデオ流しちゃうから エへ」

こうして

俺の淡い期待は裏切られ

ほろ苦い……………いや、

ブラックコーヒーのような苦い経験をした

最悪の一日になった

保健室編終わり

ひらりと散る童貞

石本先生から解放された

俺は今、家路についている

途中、

何人かにげっそりしていると言われたが
実際かなりげっそり
している

なにせ8回も搾りとられたのだから
いや、この場合
搾りとったたになるのか？

まあそんなことは
どうでもいい

今日は
よく眠れそうだ

つと
家についた

そうだ
俺の家の説明をしよう

俺の家は
7000万円の戸建て
広さはそこそこある

ついでだから
家族のことも話そう

親父は

倉科トオル(46)

職業は倉科グループ理事
ちなみに祖父は理事長だ

お袋は

倉科サキエ(43)

専業主婦

趣味は俺いじり

そして

最愛の妹

倉科アヤ(14)

最近、色気がでてきて

俺はムラムラ

たまに

脱衣所の脱ぎたてパツを拝借させていただいてるぜ

以上

俺の家族だ

お前ら

俺のこと、ただの変態と
思っていただろう
実は金持ちなのさ

まあ

人間的に残念な俺の

こずかいは月2000……

少なすぎ！

妹は

月3万なのに…

そういえば

親父は理事をやってるが

グループ傘下の会社の社長も何社かやってるんだが

その一つの

会社が

コームやオホを

作ってる会社

俺は

新製品をただで

もらってる

「こずかいから引かれてる

でも、2000は少なすぎだろ

なんかめんどくなくなっ

きたな

この話はやめ

家につくと

俺はすぐに自分の部屋に

入った

そこで俺の意識は
消えた…

目を覚ますと

すでに日付がかわっていた
パツ！

違った

風呂に入らないと

着替えをもつて

風呂場に向かう俺

少し頭、正確にいうと

頭部の上の方が

少し涼しい

脱衣所の鏡をみると

少し髪が薄くなっていた…

これはやばい

モテないのにハゲになったら、さらにモテない
っていうか

子供のおもちやになる…

そんな人生

t h e e n d

その後

俺は20分間、放心状態

そして

一つの打開策を見つけた

育毛剤を使おう！

えっ、誰でも思いつく
って？

すいません、童貞は

思考が遅いんです

アッチは早いけど…笑

そうして

風呂上がり

育毛剤を使い

部屋に戻ると

もっこりと膨らんでいた

俺のエクスカリバー

じゃないぞ

俺のベツトが膨らんでたんだ

六条の御息所か

おそろおそろ

ふとんととると

そこには……………

次回

深夜のチェリボーイ編

タイトルが徐々に
変になってきたと
思うのは俺だけか……

ひらりと散る産貞（後書き）

エロいことを考えすぎるとハゲやすくなるそうです

みなさんも気をつけてください

ノルマンディー上陸作戦

ふとんをめくると

そこにはアヤが寝ていた

トイレにいつて寝ぼけて

部屋を間違えたのだろうか？

いや、これは

幻だ

俺はアヤの頬に触れてみた

ぷにっ

おお

やはりこれは現実のようだ

妹はいつも寝るときは

キャミソールにパ ティ

だ

やばい

エクスカリバーが……

ごくっ

ちよっとくらい触っても

ばれないよな

第二次世界大戦中

アイゼンハウワーの

ノルマンディー上陸作戦を実行したいと思う

もちろん俺の目指す

ノルマンディーは

妹のおっいと

マ のことさ

その前に

写メをとっておこう

これからの夜のお供は

この画像に決定

では

作戦開始

まず

俺は上のノルマンディーから上陸することにした

ゆっくりと忍び寄る

歩兵こと俺の指

ノルマンディーまで

あと100m

ぶにっ

おお

やわらけー

はじめての感触に
感動した俺は
しばらく静止してした

よしもつと
触ってやる

もみしだくように
触ろうとしたその時

妹と目があった

.....

まずい
どうする、俺

幸い、妹は完全には
起きておらず
寝ぼけているようだ

「アヤ、今、アヤは禁断の楽園にいるんだ。早く戻らないと廃人になるよ。」

「さあ、自分の部屋に戻ろうね。」

「何が戻ろうねえ。だ
さつき、あたしのおっぱい触ったでしょ
最低、お兄ちゃんみたいな童貞ヤローなんか大嫌い」
そういって

アヤは俺の部屋から去った

呆然と立ち尽くす

俺に残ったのは

後悔とエロ写メだった…

さよなら童貞 ～君と過したあの日々～（前書き）

この話は

今までの話以上に

エロい表現が

多く含まれていますので

苦手な方は

読まないことをおすすめします

さよなら童貞　君と過したあの日々

俺は今

電車に乗っている

中途半端に妹の

おっ　いを触ったのが

原因か

俺のエクスカリバーが

うずきつぱなしだ

今、

俺の目の前には

女子高生がいる

顔はかなりかわいい

スタイルも抜群だ

俺は衝動に駆られた

気がつけば

俺は彼女のお尻を

触っていた

彼女は内気な娘なのか
だまっていた

そして、その顔は
少し紅潮していた

それが
トリガーとなった

俺の行動は大胆になった

お尻にあつた手は

前に移動し

下着に手をいれ

直接、マ を触っていた

もう一方の手は

彼女を胸を揉んでいた

しばらく

その感触を楽しんだあと

俺は

あろうことが

ジーンズのジッパーを

下ろした

エクスカリバーをとりだした

そして

彼女の中に挿れた

腰が抜けるほどの

快感だった

俺はしばらく

夢中で腰を動かした

すると

突然、何かすごい快感が
くるのがわかった

次の瞬間

俺はだしていた

やった

ついに俺は童貞を
卒業した

初エ チが

こんなかわいい子なんて
自慢できるな

余韻にひたっていた

その時

電車が駅につき
人が乗り降りした

満員だった車内から
人が減った

そして

「きゅん」

声のほうを見た

今、電車に乗ってきた
OL風の女性が何かに
怯えるように悲鳴をあげた
視線をおうと

その先は………俺？

その時

俺はモノを彼女の中に
挿れっぱなしな
ことに気がついた

直後、

俺はサラリーマンの男性
二人に連行された

裁判で俺は
強姦罪で3年の実刑を
受けた

家族は
俺との縁をきった

まあ妥当な判断だろう

ニュースになってからでは倉科グループは崩壊していただろう

これから3年間

エロのない刑務所で
過ぐすと思つと
憂鬱だ

そろそろ時間のようだ

最後に一言

I a m h e r o .

脱童貞の代償

7年後

俺は刑期を終え
出所した

ここで

ん？

つと疑問をもつ人が
いるだろう

たしか

三年だったはず…

俺は

あの事件から

三年後

出所した

そして

再び電車での
過ちを繰り返した

計三回の過ちを繰り返した俺は15年間
刑務所に入った

自宅への道を歩いていると突然、背中に衝撃が走った
振り返ると
見覚えのある中年女性が
いた

たしか
最初の事件の被害者の
母親だ

目が合うと
走り去っていった

地面に赤いものが
落ちた

どうやら血のようだ

どうやら
俺は刺されたらしい…

意識が朦朧としてきた

みんなありがとう

さようなら………

脱童貞の代償（後書き）

ついに思春期男子の妄想
最終話までできました

このような
レベルの低い作品を
読んでくださり
ありがとうございます

現在
新たな作品に取り組んで
います

完成次第UPしますので
そちらも
よろしく願います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8701i/>

思春期男子の妄想

2010年10月28日07時56分発行